

藤本一馬 + 岡部洋一

guitar

percussion

2017 **11月24日(金)**

開場 19:30
開演 20:00~

(2ステージ 入替なし 途中入場可) (1drink=600円~)

MC 3000 円 + 2drinks order

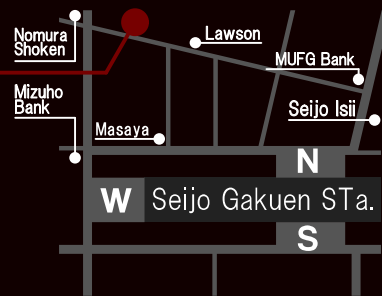
CAFE **BEULMANS**

03-3484-0047

info.cafebeulmans@gmail.com

東京都世田谷区成城6-16-5-2F

メールでのご予約の場合、
必ず当日ご連絡がとれる電話番号を
ご記載ください。



藤本一馬

ミュージシャンの父の影響で幼少期よりギターを弾き始め、ジャズ、南米の音楽をはじめとする広汎なワールドミュージックに親しむ。1998年ヴォーカルのナガシマトモコとorange pekoeを結成。1stアルバムのセールスが35万枚を超え、その後も国内はもとよりアジア各国や北米でのCDリリース、ライブ公演など幅広い支持を獲得。2011年に初のソロ・アルバム「SUN DANCE」をリリース。岡部洋一(per)と工藤精(b)を迎えたトリオで25分超に渡って猛々しいまでの躍動感を表現した表題曲が話題となる。その後カルロス・アギーレ(p, vo)、ヘナート・モタ&パトリシア・ロバート(vo)、北村聡(bandoneon)等を迎え、デュオ演奏を中心に収録した「Dialogues」、トリオを軸にアンドレ・メマリー(p)、金子飛鳥(violin)、佐藤芳明(accordion)、沢田穂治(Choro Club /b)等を曲ごとに迎えたカルテット中心の「My Native Land」、ピアニスト伊藤志宏とのデュオ作「Wavenir」をリリース。そして2016年に林正樹(p)、西嶋徹(b)とのトリオを軸に、アルゼンチンからシルビア・イリオンド(vo)、ブラジルからジョアナ・ケイロス(Clarinet)を迎えた「FLOW」(SPIRAL RECORDS)をリリース。ジャズを基調に多岐にわたるフォークロリックな音楽から大地の滋養を汲んだチェンバーミュージックのあらたなかたちを展開。多様な音楽的造詣を、明敏な感覚により汲みとられた現代性とともに取り込ませる陰影を含んだソングライティング、また空間的ギタープレイからオープンチューニングを使用した躍動的なプレイまで、その音楽性は高い評価を獲得している。

岡部洋一

1962年東京都出身。高校時代からパーカッションの演奏を始める。早稲田大学在学中にラテン音楽やロックのサークルに出入りし、プロとしての活動を開始。歌謡曲のバックや、ブラジル音楽、ジャズなど幅広く演奏する。現在はトランスロックバンド「ROVO」や、プログレッシブジャズロックバンド「ボンデー・ジフルーツ」、16人編成のブラスロックバンド「THE THRILL」のメンバー。2001年、ソロアルバム「SATIATION」をまぼろしの世界からリリース。2006年には、ソロライブアルバム「感覚の地平線」をリリース。洗足音楽大学ジャズコース非常勤講師。主な共演アーティストは溝口肇、佐藤允彦、鈴木良雄、向井滋春、勝井祐二、鬼怒無月、芳垣安洋、小野リサ、Baden Powell、João Donato、ホッピー神山、ショーロ・クラブ、村田陽一、村松健、遠藤律子、中村善郎、福岡ユタカ、酒井俊、中島啓江、アキコ・グレース、木之下真市、菅野よう子、今堀恒雄、納浩一、柏木広樹、木住野佳子、中西敏博、朝崎郁恵、Saigenji、榊原大、鈴木亜紀、リリアナ・エレロ、などなど。